

中島健蔵の『自画像』から読み解く

大正後期の松本

話題提供 **倉澤 聡** さん (都市計画家)

日 時 **2月10日(土)** 午後1時30分～3時30分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 1-1室** 参加費 200円

※ 電話での事前申し込みが必要です

フランス文学者の中島健蔵(1903-1979)は、旧制松本高校の第4回生として大正11年～14年(1922～25)まで3年間松本に暮らしていました。旧制松本高校卒業後は東京帝国大学の仏文科に進み、小林秀雄や三好達治、今日出海らと同期で、太宰治ともつながりが深い人です。

1961年から66年に出版した全5巻からなる自伝小説的著作『自画像』(筑摩書房)には、当時の松本での経験が詳しく綴られています。

フランス文学に興味を持ちフランス語を学びたかった中島健蔵ですが、旧制松本高校にはフランス語(丙類)は無かったため文科乙類(ドイツ語)を選択しました。入学後松本の司祭館にフランス人司祭ギュスターブ・セスランがいることを知ると、司祭館の門を叩いて自主的にフランス語を学びました。セスランは、はじめて日仏大辞典を編纂した人として知られています。

また、フランス関連のこと以外にも今でも営業するお店の名前もちらほら出てきながらの街での出来事や、山好きな中島健蔵が歩き回った山登りについてなど、『自画像』には当時の松本を伺い知ることができる貴重な記述があります。今回のサロンでは『自画像』の記述をもとに、大正後期の松本について少々覗いてみたいと思います。

倉澤聡(くらさわ・さとる)さんは1975年、松本市生まれ。早稲田大学で経営システム工学、東京大学大学院で都市デザインを学び、フランス国立土木学校で修士プログラムを修了。松本市の都市デザインアドバイザーや「クラフトフェアまつもと」の企画運営などで活躍し、「松本看板学会」など街を面白くすることを幅広く仕掛けている。共著には『城下町のまちづくり講座』がある。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎35-6226 FAX 33-9986